

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：医学部保健学科

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の実施体制については25年度については転任・退職教員の補充は出来た。所属専攻に関わりなく、教育に参加する体制を作るようにした。各専攻の病院実習は岡山大学病院で実施しており、看護部の看護師、医療技術部放射線部門・検査部門の診療放射線技師、臨床検査技師に、臨床教授(6名)、臨床准教授(26名)、臨床講師(35名)を委任し、教育における病院との連携を密にした。 ・医学部、薬学部との共通教育として「チーム医療演習」を実施した。看護学専攻の学部教育ではマスクットキューブのシミュレーターを用いて実施した。放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻では活用までには到らなかった。 ・Computer based testing (CBT)はWeb based testing (WBT)と名称を変更した。3専攻とも1-4回のWBTを実施した。検査技術科学専攻では3年次終りから4年次に4回実施し、学力の伸長度を判定し、指導を行った。モデルコアカリキュラム作成のための調査を行った。 ・カリキュラムマップはほぼ作成を終えたが、アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとシラバスにおける授業科目の位置づけ、到達目標などの検証は一部を除き出来ていない。
<p>教育の実施体制については、教員の退職、転任などにより教員数が減る中、学士力の向上と教育の効率化を図るため、教員の確保のみならず、専攻の壁を取りのぞいた教育体制を作る。この様な教育体制に対応できる次世代の教育を担う教員の育成を進める。</p> <p>教育方法・内容に関しては、医学部、薬学部との共通科目の推進や岡山大学病院と連携したシミュレーターを用いた教育を継続・拡充し、医学部、大学病院、薬学部、歯学部との連携を強化する。</p> <p>昨年度は岡山大学独自の問題を作成し、Computer based testing (CBT)を3専攻とも実施したが、さらにCBTによる学習達成度の評価に取り組む。将来は臨地実習に出る要件、あるいは進級要件としての基礎専門知識の到達レベルの評価に用いる。その為にはモデル・コア・カリキュラムの如く、教育方法を含めた教育内容の提示が必要であり、準備を開始する。</p> <p>アドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとシラバスにおける授業科目の位置づけ、到達目標などを相互に検証し、カリキュラムマップを明確にし、教育の改善に努める。</p>	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	①-2 目標とする(重要視する)客観的指標
<p>看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率、就職率。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度国家試験は結果発表はまだであるが、24年度の合格率は看護師100%、保健師98.8%、助産師100%、診療放射線技師86.55%、臨床検査技師97.7%と高い合格率を達成した。25年度も高い合格率が予想される。 ・24年度の就職率は看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師の全てで100%を達成できた(大学院進学を含む)。25年度も同様と思われる。
②研究領域	自己評価
②-1 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各専攻とも卒業研究の発表会を実施した。卒業論文は卒業論文集として記録した。
<p>研究は研究科と一体となり遂行し、科研費、寄附金、委託研究費など外部資金の獲得に努める。</p> <p>卒業研究は公開で発表会を行い、記録を残す。</p>	
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	②-2 目標とする(重要視する)客観的指標
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・タイ国マハサラカム看護大学との交流は相互訪問が実現した。保健学科からはH25.9.15-20に教員2名、学生2名が訪問し、マハサラカム看護大学からはH25.9.12-9.12に教員2名、学生4名の訪問があった。 ・「保健学科長と語る会」の参加者は平成25年度は14名であった。昨年度とほぼ同数であった。しかしオープンキャンパス、オープンスクール、大学訪問者数は年々増加している。参加人数が増えたため、オープンキャンパスの実施方法は再考する必要がある。 ・「保健学研究科フォーラム」のテーマは、『国際交流・先端医療と保健学』で実施した。参加した高校生は25名で、国際交流や留学についていくつもの質問があった。
<p>地域貢献として、医療関係者、一般市民を対象とした講演会、研修会等を行い、地域社会との交流に努める。</p> <p>タイ、マハサラカム大学との交流は引き続き行う。</p> <p>外国人研究者、留学生の受け入れを推進する。</p>	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	③-2 目標とする(重要視する)客観的指標
<p>「保健学科長と語る会」、「保健学研究科フォーラム」の高校生参加者数。</p>	
【総括記述欄】	
<p>全体的にみて年度目標はほぼ達成できた。26年度はアドミッション・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとシラバスにおける授業科目の位置づけ、到達目標などの検証をして、教育の改善を計る。</p>	